

ミッション・ブルー・ホープスポット・カウンスルメンバーの皆様

私たちのグループ「ジュゴンの里」は、沖縄県名護市辺野古・大浦湾を拠点に地域に根ざした小さなエコツーリズム事業を運営しています。2000年から自然体験プログラムを実施しています。グループの名称「ジュゴンの里」が示す通り、私たちは辺野古・大浦湾に生息するジュゴンをはじめとする海洋生物種を大切に、この地域の環境を守る決意であります。日本自然保護協会（NACS-J）がこの地域をミッション・ブルーのホープスポットに登録申請する準備を行っているとのこと、この登録申請に対して心からの支持を表明いたします。

私の故郷と生活：辺野古・大浦湾とジュゴンの里

私、東恩納琢磨は、ジュゴンの里の創設者兼代表であり、2008年から名護市議会議員を務めています。私は名護市瀬嵩地区で生まれ育ちました。瀬嵩地区は美しい大浦湾に面しており、辺野古岬と岬沖の平島と長島は瀬嵩海岸から私のボートでわずか15分のところにあります。辺野古・大浦湾はこれまでも、そしてこれからも常に私、家族、地域社会にとってかけがえのない重要な存在であり続けます。

ジュゴンの里は、この地域を訪れる人々が辺野古・大浦湾の素晴らしい海洋環境を体験するお手伝いをしています。カヌーやカヤックの体験も提供しています。グラスボートに乗ってサンゴ礁、珍しい魚、海草、さまざまな種類の貝など豊かな海洋生物を観察するツアーや、この地域の生物多様性と生態系の重要性、ならびに環境と平和の関係についての講話も行なっています。私はこの海域のお陰でこのような素晴らしい仕事に就くことができたことを誇りに思い、感謝しています。

辺野古・大浦湾：窮状と希望

絶滅のおそれのある260種を含む5,300種の海洋生物が生息する辺野古・大浦湾は日本で、そしておそらく世界でも最も重要な海域のひとつです。この海域は日本政府によって「生態学的、生物学的観点から重要な海域」に選定されており、沖縄県の自然環境の保全に関する指針では、評価ランクⅠの「自然環境の厳正な保護を図る区域」とされています。また、大浦・沼川河口のマングローブ林はラムサール条約湿地の候補地となっています。

辺野古・大浦湾の貴重な自然環境にもかかわらず、日米両国政府は1997年からこの地域に米軍基地を建設しようとしています。悲しいことに、2018年12月に埋め立て作業が始まり、地元をはじめ国際的にも反対の声が上がる中、工事は徐々に進められています。私たちにとって全く考えられないような事態が起きているのです。

しかし、これまで私たちが困難に直面するたびに、辺野古・大浦湾の自然環境はその謎を明らかにし、最も創造的な方法でこの地域を保護するよう私たちに勇気づけてくれました。この地域は常に私たちに希望（ホープ）を与えてきたのです。

たとえば、1998年、ボートで大浦湾に頻繁に出かけ、絶滅の危機にある海洋哺乳類で日本の天然記念物、かつ沖縄の文化的象徴であるジュゴンを探していた時のことです。当時ジュゴンはすでに沖縄では絶滅していたと考えられていました。しかし、1997年に日本の防衛省が米軍基地移設計画の準備のためにこの地域の空中調査を行った際にジュゴンの姿を捉えていました。私は自分の目で確認したいと思っていましたが、ある日ついにジュゴンに出会うことができました。ピンクがかかった金色に輝くジュゴンが私のボートのすぐ側を泳ぎ、その後ゆっくりと青い海に潜っていきました。

ジュゴンとの出会いは、私がジュゴンの保護活動を始めのきっかけとなりました。まず、ジ

ジュゴンとその生息環境について学び始め、辺野古・大浦湾の貴重な自然環境と私のジュゴンとの出会いを他の人々と共有できるよう、「ジュゴンの里」を立ち上げました。私は北限に生息するジュゴンの窮状に対する注意を喚起するために、保全に関する国際会議に出席し始めました。2003年に米国国防総省を米国連邦裁判所に提訴した「ジュゴン訴訟」にも共同原告として参加しました。訴訟はまだ続いています。

もう一つの例は、2007年に友人と共に私のボートで大浦湾でのエコツアー・プログラムのための「エコスポット」を探していた時のことです。私たちは、地元で「チリビシ」と呼ばれている沖合の浅瀬の岩礁に形成されたアオサンゴの巨大群落を見つけました。研究グループである沖縄リーフチェックの専門家は、この種を *Heliopora coerulea* (アオサンゴ) と同定しました。地質学者と NACS-J の研究者たちがこの群落を調査し、その規模を測定したところ、長さは 50 m、幅は 30 m、高さは 12 m に達することが分かりました。その後、多数の DNA サンプルの解析が行われ、この群落が世界中の他の海域で見られるアオサンゴの群落とは遺伝的に異なっていることが示されました。

アオサンゴ群落の発見がきっかけとなり、エコツアーのスポットとしてこの群落を保護し PR することを目的とした自主ルールを確立するための地域住民の取り組みが活発化しましたが、成功には至りませんでした。2018年に私たちは別のアプローチを取りました。このアオサンゴ群落を県の天然記念物に指定するよう沖縄県に請願したのです。私たちの請願は現在検討中です。請願が成功した場合、他の新たな利害関係者とも協力して、大浦湾の海洋環境の保護と持続可能な利用のための自主ルールに基づいた包括的な計画を確立する取り組みを拡大したいと考えています。

登録申請を支持します

辺野古・大浦湾は日本で有数の生物多様性に富む地域であり、地域住民に生計の機会を提供しています。日米両国政府が米軍基地建設計画を推し進める中、地域住民と世界中の支持者たちは、この地域と私たちの暮らしを守ろうと懸命に取り組んでいます。NACS-J がこの地域をミッション・ブルーのホープスポットに登録申請してくれたことに感謝いたします。ホープスポットへの登録は辺野古・大浦湾の環境の価値とそれを保護する取り組みの正当性を証明するものです。辺野古・大浦湾の海域全体の保護と保全は極めて重要であり、ホープスポットへの登録は私たちを勇気づけさらなる取り組みを促すでしょう。ジュゴンの里は、この登録申請を心から支持いたします。

敬具

ジュゴンの里代表
東恩納琢磨